

専門試験（保健師）

[例題1] COPD に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. COPD は慢性気管支炎や気管支喘息、肺気腫の総称で、有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患である。
2. COPD の特徴的な症状は、歩行時や階段昇降時に息切れを感じる労作時呼吸困難や慢性の咳や痰である。
3. 肺胞が破壊されて、肺気腫という状態になると、肺が膨らもうとする力が減少して、息を吐くのは容易だが息を吸うことが困難になり、酸素の取り込み機能が低下する。
4. 肺機能検査（スパイロメトリー）で、「1 秒率」が50 %あれば、COPD の可能性は低い。
5. 喫煙者における COPD の発症率はおよそ50 %である。COPD 患者が禁煙すると、「1 秒量」が改善する。

正答 2

[例題2] スクリーニング検査に関する次の文中のア～ウに入るものがいずれも妥当なのはどれか。

通常、スクリーニング検査では、陽性判定の基準値（どの値より異常であれば疾病を疑って陽性と判定するか）は固定されていない。陽性と陰性の判定をする境目の基準値を と呼び、感度と特異度を見ながら適切な値を設定する必要がある。

を高度な異常値から軽微な異常値に変更する、つまり、少しでも異常があれば陽性と判定するようにすると、 は上がり、 は下がる。

	ア	イ	ウ
1. カットオフポイント		偽陽性率	感度
2. カットオフポイント		偽陽性率	特異度
3. カットオフポイント		偽陰性率	感度
4. トレイドオフ		偽陽性率	感度
5. トレイドオフ		偽陰性率	特異度

正答 2